

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101758		
法人名	株式会社 桜会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム アクア		
所在地	熊本市南区八分字町22-1		
自己評価作成日	平成30年3月12日	評価結果市町村受理日	平成30年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成30年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になっても不安や混乱を感じない穏やかな生活の支援、そしてできるだけ自分の足で歩いていただくための支援を第一に考えています。運動機能の低下は日常生活維持および活力に大きな影響を与えます。個々の状態に応じた個別機能訓練を毎日行い、転倒のリスクの高い方にも安易に車いす使用を勧めるようなことはしない介護を実践しています。歩行器を使用していた方が使用しなくなった方もいらっしゃいます。中庭にはアンツーカーを使用した100mほどの散歩道があり、またやや広めの芝生と家庭菜園うらの畑がありますので、気候の良いときは日向ぼっこや散歩、花壇の手入れや野菜を植えたりしています。春と秋には紅白の鉢巻きを締め、併設である小規模多機能ホームvsグループホームでの運動会を行っています。毎日の体操やレクリエーションを楽しんでいただきメリハリのある生活を送っていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者が共に触れ合いながら、現状維持ではなく機能を「向上」できる様々な取り組みが展開されているホームは、手入れの行き届いた庭先や玄関・リビングをはじめ、随所に飾られた草花が入居者に季節感と会話のきっかけも提供している。食事は健康面に加え入居者にとって楽しみの一つであることを十分認識し、盛り付けや毎食、旬を活かした懐かしい家庭調理から洋風のものまでそのレパートリーの広さは、開設時から好評を得ている。外出を含め普段の様子を写した写真はホーム内への掲示や映像として家族などに紹介しており、入居者同士の語らいの様子、お気に入りの帽子で過ごす日常、熊本城マラソンの応援隊としての姿など日常が手に取るようにわかるものである。職員の特技やアイデアは入居者の生活に更に活気と楽しみを与えており、今後も併設の小規模多機能事業所との交流など特性を生かしたホーム運営により、入居者が地域の人々と共に支えあう暮らしを支援いただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	残存能力や歩行能力を一日も長く維持していただけるよう、リスクをとっていく介護、過剰とならない介護を実践している。そのため毎日体操、運動を行い、屋外での散歩や日光浴を行っている。必要であれば個別トレーニングも行い能力の維持復帰するよう実践している。	平成28年の開設よりちょうど2年の月日を迎え、ホームの理想とする個々の尊重や心身機能の維持・向上に向けた支援を柱とした理念を継続している。玄関に掲示することで来訪者への啓発とし、自己評価により振り返りを行い、何より普段の生活の中で努めて意識するように心がけている。	今後、理念に込められた意義を実生活の中で具体的にかみ砕いてみることで、更に一步踏み込んだものになる。また、ホームパンフレットなどに記載することで、外部へ向け更なる啓発に繋がると思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・校区主催のグラウンドゴルフ大会の応援 ・地域のコンサートの観覧、応援 ・「姿勢の良くなる体操教室」の開催 ・熊本城マラソンの応援 ・近隣の幼稚園との屋内外の交流 	地域の主産物である長なすから命名された「長なすコンサート」に併施設設と共に参加し歌を披露したり、本年度は中止になったもののグラウンドゴルフ大会では、人々と応援を通して大会を盛り上げている。本年度も地元保育園児との芋ほりや季節の行事を楽しみながら交流を深め、地域からの相談事にも丁寧に応じることで信頼関係を築く努力をしている。	公道わきにあるホームでは職員の車のマナーについて以前地域からの声も上がっており、今後も話し合いの場を設け、一人ひとりが地域の一員としてしっかりと自覚し、心にとめることが必要と思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	週3回行っている「姿勢の良くなる体操教室」や姿勢セラピストによる「姿勢セミナー」の開催し健康維持に対する啓蒙活動を行っている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度会議を行い、活動報告を写真を交えながら報告している。また、テーマを決め、ご指導頂いたり、議論していただいている。参加者は民生委員、自治会長等地域の方や地域包括の方、など10名ほど参加して頂いている。ご家族にも参加のお願いを行っているが、実現できていない。	隣接する小規模多機能ホームとの合同会議となっており、包括職員や地域代表者が参加している。毎回議題を設定し、トーク形式で参加者から様々な意見を引き出し、その中で地域行事の情報やホームの課題点を提示しながら、解決への糸口を出席者と共に討議している。	会議終了後、入居者の様子を見て帰られる参加者も中にはおられるが、今後は毎回でなくとも全員の方に普段の状態を見てもらうような取り組みを期待したい。また、家族の参加も引き続き依頼して頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	監督官庁である市とは、綿密に連絡を取り合いご指導やご助言をいただいている。	運営推進会議に参加する包括職員とは、ホームの現状を明らかにしながら助言や提案を得ている。運営者も必要に応じて直接行政や地域代表者のもとを訪れ、意見をもらいながらホーム運営に反映させ、良好な関係継続に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームの目的や役割を伝え、施錠や拘束をしない方針を理解していただいている。尋ねられた際には丁寧に説明している。	庭先やホーム内はゆとりがあり、季節を感じながら過ごせる環境も入居者にゆとりと自由な時間を支援している。玄関の施錠はなく、外出傾向のある方にも、職員は付き添いながら散歩に出、天候の悪い時は室内を自由に歩いてもらえる環境を整えている。また、言葉や動きを遮る対応などについても、会議の中で指導や共有を図っている。報道で拘束・虐待を目や耳にした際は、職員間でも、改めてふさわしくない対応について話し合っている。また、職員同士も体調には十分配慮し働きやすい環境を作っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修で利用者の権利擁護について学ぶ機会を設けている。そのため、カギをかけない介護、ドラッグロック、スピーチロックなどをしない介護を基本としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて学んでもらうよう努めているが、成年後見人制度に関しては研修の回数、参加回数が少なく受講できない職員も多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の時や契約時に丁寧に説明している。疑義についても随時説明している。解約・改定等についても、十分に説明し、契約を締結している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気軽に意見や要望を言っただけのような雰囲気づくりに努めている。申し出があった場合にはすぐに全職員に伝達し、反映させている。	入居者や家族が意見や要望を言いやすいホーム運営に努めており、面会の家族に気持ちの良い挨拶を心掛け、本人の近況などを伝えている。本人の要望などは日頃の関わりの中で聞き取っており、面会の少ない遠方の家族などには電話などで近況を伝えた際、要望がないか確認している。直接気づいたことなどを伝えらえる家族もおられるが、苦情を含めた意見はあまり出されていないようである。ホーム内外の相談窓口についても契約時に説明している。	家族から出された感謝の言葉なども記録に残すことで、職員の励みや振り返りになると思われる。また、なかなか意見・要望を出すことができない家族の気持ちもさっし、職員間で内容を検討した家族アンケートなども一案と考える。また、些細な意見についても、職員間で共有する機会を持ち、改善策や家族への報告など記録に残しておくことが必要と思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や申し送り時にスタッフの意見や提案を聞く機会を設けている。日頃から意見の言いやすい雰囲気を作り、反映するようしている。	職員の意見や提案の出しやすい職場環境に努め、勉強会や申し送りの中で意見交換をしながら提案などがサービスに活かせるようにしている。また、運営者は共に業務にも関わり、隣接した小規模多機能事業所との連携や特性を生かした運営により、サービスの向上や職員のスキルアップに努めている。給与や福利厚生においても、職員の意欲に繋がるよう、経理担当者への提案が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は長年の介護現場の経験を活かし、各自が向上心を持って働けるような職場づくりに努めており、給与水準や福利厚生の向上には特に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修についてはできるだけ平等に受講の機会を設け、研鑽に努めている。また社内研修を行い外部研修に参加できない職員のフォローアップも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、研修会での交流に留まることが多い。しかしながら、近隣の地域密着型サービス事業所2か所とは互いに相談を行うような間柄である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護経験や人生経験の長いスタッフが多く、傾聴や気づきに長けており、利用者は入所後早い段階で安心した生活が開始できている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族ともよく会話できており、利用に至るまでの思い、現在の思い、今後の要望から日常の世間話まで傾聴しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の状態にもよるが、在宅が可能であれば小規模多機能ホームの利用を提案し、本人の負担を軽減するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれの残存能力を見極めながら、暮らしを共にするもの同士としてカギノ協力だけでなく、利用者相互の助け合いも行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にするため、家族の支援も大切である旨を説明し、共に支えていく関係構築につとめている。そのために訪問時や電話により詳細を伝え、常に家族の一員であるという意識をもていただくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣にあるなじみの場所には出かけているが、遠方には難しい状況である。なじみのある場所であることを説明すると楽しそうに思いう話されるかたもいる。	ホーム近隣や入居後の生活で馴染みとなった場所(スーパーや運動施設他)への支援はあるが、以前の生活圏への外出は難しいようである。お気に入りの帽子を被る生活、以前は着る機会もあった和服の支援(ファッションショー)、花や木々を眺めることが大好きな方に花の手入れや水かけなどその方のこだわりや楽しみごとを普通の生活として、またはイベントの中に取り入れている。食事支援も郷土食や馴染みの料理で喜んでもらえるようにしている。	自己評価に記されているように、馴染みの場所などで楽しそうに思いう話をされた方もおられるようである。一人ひとりにとって馴染みの場所は様々であり、今後も家族からの情報も得ながら、馴染みの場所に加え、特技や趣味こだわりなど支援の範囲を広げ、入居者のこれまでを大切にされた支援を継続していきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の皆さまが参加する体操・レクレーションを毎日行い、またカラオケなどにも参加していただき、両ユニットの方々が関わる機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院により退所された方から、ご相談があり、その際すぐに入所できなかったが、別の施設の利用を提案し、しばらくし、入所して頂いたケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の疎通がとれる方とは毎日の会話の中から希望や意向を聞き出している。コミュニケーションが困難な方については表情や行動から思いを推し量り、把握に努めている。	職員は毎日入居者と一緒にゆったりと過ごす時間を持つことを心掛け、会話の中から暮らしへの意向などを聞き取っている。伝えることが難しい方には特に入浴・排泄支援など1対1になれる時間にコミュニケーションを取りながら表情やうなずきなどからくみ取るようにしている。また、家族の面会やカンファレンスの中でも、本人の現状を伝えながら思いを聞き取っている。計画作成担当者は、職員と入居者の信頼関係が一番であり、心を込めた支援に努めることの重要性を伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや、情報提供書、認定調査時の情報の閲覧など、生活歴・既往歴などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	有する能力を把握し、個別の機能訓練や一人ひとりにできる活動や作業に取り組んでいただけるよう過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族とは普段から意向を聞いている。また、家族を交えたカンファレンスを行い、現状の報告、説明を行いそれらに関する意見を頂き、介護計画に反映させている。	本人の望む生活を支援できるよう、計画作成担当者は本人・家族の意向や職員の意見・気づきを反映させたプラン作成に努めている。身体状況の変化や入退院などがあった場合は、その都度見直しを行っている。職員会議や申し送り時などにも、プラン作成に繋がる意見やプランの意義などが記されている。家族には日頃から入居者の現状を使えており、プラン説明時にも内容や取り組みを丁寧に説明し了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人ケース記録、カンファレンス、申し送り帳、1日2回の申し送りにて情報を共有し、介護計画の見直しや実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、既存のサービスの提供にとどまっているが、来年度からは姿勢調整を行う治療院が併設されるので姿勢調整のサービスを提供していきたいと考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などを通じて地域の方々からの情報もあり、地域資源についても把握している。「ささえり飽田」からの助言を受けながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特に希望がない場合には協力病院を受診しているが、希望される医療機関があれば意向の通りとしている。その際の受診については家族対応をお願いしているが、困難な場合には職員対応としている。	かかりつけ医については、本人・家族の希望に応じている。協力医にはホームで対応し、他の医療機関であれば、家族での受診を依頼しているが、困難な場合は、ホームでも柔軟に応じている。歯科については、協力歯科医院より訪問診療が行われており職員も歯科医師や衛生士より指導を受けたり、質問に応じてもらい、日々の口腔ケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者についての相談をはじめ受診や看護等について看護師が2名おり、また併設している小規模多機能ホームにも看護師が2名在籍しているので介護職員は心強く業務ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送時、主治医の指示に従い搬送先の医師や看護師の求めに応じ十分に時間をとって情報提供を行っている。かかりつけ医や訪問診療医、看護師とは日頃より良い関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時にも終末期についての意向確認を行い、その時点での意向確認書や同意書を頂いている。家族を交えたカンファレンス時に看取りについての説明を行い、不安を感情についても支援できるよう努めている。	契約時に終末期支援に関してその時点での意向や同意を書面で交わしている。家族を交えたカンファレンスを開催し、ホームの看取りについて説明を行っている。身体状況の変化に伴い、家族の抱える不安を察し、運営者は相談事項があればいつでも申し出て欲しいと説明し、職員にも伝えながらその時点で出来る対応を検討している。終末期支援については、職員のメンタル面への配慮や必要な知識も重要であり、看護職員が外部研修に参加した後は、復講により共有を図っている。	高齢者介護に経験を重ねてきた運営者や思いを共有する職員は、入居者・家族の思いを大切に、今後も日頃の支援を大切に努めていきたいと語っている。全職員がAEDの使用が適切に行えることなど、課題としている取り組みの実現に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡網であったり手順について勉強会にて確認している。今後はAEDの使用方法についても全職員が使用できるよう努めていきたいと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練は年2回行っている。水害についても今年から訓練を行う予定である。地域との協力体制については、運営推進会議にて相談し、助言を頂いている。	年2回火災を想定した避難訓練と、水害の対応についてはマニュアルを作成し役所への提出は済みであり、今後は訓練の実施が予定されている。日頃の安全点検(コンセントの埃・ホーム周辺の確認など)により、職員の意識付けを図っている。熊本地震についても風化する事の無いよう、日頃から備蓄などについて話題にし、運営推進会議の中でも、話題にあげている。	地域との協力体制について、運営推進会議で相談・助言を受けている。今後はこの会議の中で災害訓練を行うことも一案と思われる。取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいに関しては特に厳しく指導しており、スタッフには一人ひとりの人格や誇りを尊重した対応を心がけるよう求めている。プライバシーについてもきちんと保たれたケアができています。	入居者への尊重やプライバシーに配慮した対応、特に言葉使いについて運営者は、日常の業務や申し送り時など日頃から指導を行っている。また、業務優先にならず、待つ介護に努めて欲しいことを入職時よりホームの大切な方針として伝えている。呼称は苗字にさん付けで対応し、入浴時の同性介助にも希望に応じている。入室の際も在室の有無に関わらず、ノックを徹底している。写真掲載など個人情報の使用は、契約時に説明を行っており、職員の守秘義務についても、周知徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に職員主導にならないよう心掛けており、本人の希望や快不快の感情を大切にしている。日頃より本人による自己決定を行っていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の業務優先になりがちであるため、日頃より待つこと、またその方のペースを大切にしよう気を付けおり、本人の希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	きちんとした身だしなみは支援の基本であると考えている。面会があった際、自分の縁者以外の利用者もきちんとしていることでご家族も安心されると思い身だしなみには常に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けはできる方できない方がいらっしゃるが、できる方には調理の下準備や食器拭き等を多くのなるべく方々にお願いしている。	食事は入居者と職員が一緒に行うことで、コミュニケーションを深め更に楽しい食事支援に繋がっている。献立・食材購入・食材の下ごしらえや味見など出来ることに関わってもらっており、季節感や盛り付けへの工夫がされた料理は好評である。職員は見守りや介助を行いながら、味や食べたいものを聞き取っている。家族と外食に出られる方もあり、近隣の食事処であれば、送迎を行い、家族との外食を楽しめる機会を支援している。こぼしがちな方に使用されるエプロンは、衛生面から使い捨てのものが使用されている。	検食は昼は運営者が中心に、夕食は各ユニットで職員1名が摂っている。好評の食事支援が、更に次回に繋がるよう、コメントを残しておくことも良いと思われる。検討いただきたい。また、高齢の入居者には特に、十分な見守りが必要であり、介助の際は職員同士の会話には配慮が必要と思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については献立が豊富だと自負している。ベテランスタッフの栄養と見た目を考えたメニューは利用者、ご家族からも大変喜ばれている。食事量が減っている方には栄養補助ドリンクにてカロリー確保を行っている。水分については摂取量を記録し状態の確認をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医院から訪問歯科診療に来ていただき、利用者だけでなくスタッフも歯科医師や歯科衛生士より説明や指導を受けている。口腔ケアは毎食後行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けや誘導を行うことにより排泄の失敗やおむつの使用量を減らす努力をしている。毎日の申し送りにておむつの使用量を減らすための方法を考え、実践し、再び改善することを行っている。	個々に応じた声掛け・誘導や自立の方の継続ができるよう見守りや使いやすいトイレ環境により、失敗のない排泄支援に努めている。申し送りでは状況報告と排泄用品の使用量を減らすための提案を行っており、このことは本人にとって不快感を減らすことや家族の負担軽減にも繋がっている。日中はトイレでの排泄を基本としており、夜間のみ使用される方のポータブルトイレは、洗浄や消毒により清潔に管理し、居室に臭気を残すことの無いようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をきちんと摂っていただき、また朝は牛乳を飲んでいただき、下剤を使わなくて済むよう努めている。下剤の量や頻度についても本人の排便の状況により調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状、時間や曜日を決めて週3回の入浴を行っている。ただし、本人の希望があればいつでも入浴を行っている。	明るく広い浴室は清潔に管理され、週3回の入浴を基本としているが、希望があればいつでも応じている。拒否をされる方にも職員は、その方に応じた声掛けや誘導により週2回入ってもらえるように努めている。菖蒲や柚子湯も取り入れているが、好まれない方には、通常の入浴を支援している。浴槽は左右に2つ配置されており、隣の入浴者を気にされる方には、パーテーションを置き、ゆっくり自分の入浴時間を行ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に沿って休んでいただいている。時刻により就寝や起床の声掛けは行うが本人の意向に任せている。ただし、食後1時間以上は誤嚥の心配があるため、座位姿勢をとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内外用薬ともに作用副作用についての理解に努めている。処方された薬の内容や量について疑問があるときは利用者の一番近くにいる立場のものとして、主治医に相談するなど服薬支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	活気のある生活を送っていただくため、その方々の生活歴や性格を鑑みて、裁縫や業務用品作成などの細かい仕事や片付けなどの力仕事、花壇の手入れ等をお願いし、本人の状態を確認しながら変更が必要な時は変更している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の要望を大切にしている。近隣へのちょっとした外出(買い物やドライブ)は頻度を高くできるよう心掛けている。外出行事に関しても同じ内容ではなく利用者の状態にあった内容で行っている。	入居者が季節を感じながら戸外に出ることができるよう、計画的な外出に加え近隣の散歩や買い物、庭先での保育園児との交流などを楽しんでいる。開所してまだ2年目のホームであるが、スポーツ施設をはじめ地域資源を活用した外出は、様々な人々と交流する機会でもあり、入居者に更に活気やメリハリを与えている。家族の協力としては、買い物や外食、正月の帰省などが行われている。訪問当日も敷地内の散歩を日課とされる方に寄り添う職員の姿や「ユニット対抗アクア運動会」「着物を楽しむイベント」など、一つひとつに職員のアイデアがあり、入居者の笑顔が全てを表していた。これらの取り組みは写真や記録映像に残し、機会あるごとに流されている。	一人ひとり身体状況も異なる中で、敷地内や庭先での散歩を重ねながら、入居者が外気に触れる機会が支援されている。継続した取り組みに期待したい。このような身近な外出支援も含め、ホームの取り組みを家族へ伝え、一緒に協力しながら入居者の外出支援に努めていかれることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事の際の買い物、移動パン販売、神社参拝、近隣店舗(100円ショップ等)への買い物の際本人に支払っていただく。利用者の方の大半の方は所持金の管理が難しく施設側で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望があればすぐに対応している。日中はご家族も仕事をしているため繋がらないことが多い。ご家族にも利用者へ短時間でもよいので電話していただけないよう働きかけている。電話の頻度を増やしていただいたご家族もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	両ユニットとも利用者の状況によりモノが置けなくなってきている状況がある。季節感のあるものを置きたいがそれが難しい状況がなため、壁面飾りをその月にあったものを飾っている。	ホーム敷地内に入ると駐車場や庭先など、樹木や花苗の手入れが行き届き、玄関やリビングにも職員の持ち寄った草花が飾られ、随所から季節を楽しむことができる。貼り絵などの共同作品や外出をはじめ日中の活動の様子を写した写真の掲示も定期的に見直され、入居者や来訪者も楽しみにされている。身体状況から物品の配置や制限により、安全に歩行や車いす移動ができることを優先し、掃除も小まめに取り組んでいる。庭先を眺めながら、膝を抱え、いつものポーズでソファに座られる方、お気に入りの帽子を被り、穏やかに職員と談笑される方など、ホームの日常が窺われた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は広くソファがあり、また簡易ベッドを置くこともある。皆思い思いの場所で過ごし過密な状態ではない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族で居室作りされているところもあるが、認知症の周辺症状によりシンプルな居室もある。寝具は使い慣れたものが安心できると考え本人が使用していたものを持ってきていただくようお願いしている。	ホームでは通常のベッドに加え、団上がりの畳スペースに布団敷きができる部屋も設けられている。また、エアコンやテーブル・3段ボックスを備えており、危ないものは控えてもらうが、本人が安心できる馴染みの品の持ち込みを入居時に伝えている。懐かしいアルバムを持って来られた方に、本人が身近にみる事ができるよう、1枚ずつ広用紙に貼り掲示するなど職員の一工夫が見られた。また、日々掃除や換気を徹底しており、本人や来訪する家族にとっても居心地の良いものになっている。居室の移動は基本的に行われませんが、これまで身体状況による見守りの重視などから本人・家族の納得のもと行われた例もある。	居室については、今後も職員のアイデアや家族にも気づきや意見などを聞きながら、一緒に環境作りに努めていかれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器、車いすを使用した場合でも移動しやすい構造になっている。トイレ内の手すりや呼び出しボタンもあり、できることまで本人にお任せしている。難しい部分に関しては出来るようになるような支援を心がけている。		